

指定管理施設事業評価票(平成30年度分)

1. 施設所管課 観光経済部 商工 課

2. 指定管理施設概要

施設名	名称	日光市小倉山森林公園				
	所在地	日光市所野2848番地				
指定管理者	名称	日光彫り体験教室運営協議会				
	代表者名	山本 政史				
	住所	日光市所野2848番地				
指定期間		平成29年 4月 1日 ～ 平成34年 3月31日			5年間	
選定方法		(公募) ・ 非公募		評価実施年	5年間のうち 2年目	
施設設置目的		市民の貴重な財産である小倉山について、森林の持つ多面的機能性を活かし、市民の憩いの場として、及び観光資源としての有効活用を図るとともに、地場産業である木工芸及び農林業の活性化に努めるため、日光市小倉山森林公園を設置する。				
主な実施事業		1. 日光彫り体験教室運営業務 2. 小倉山森林公園の利用許可に関する業務 3. 小倉山森林公園の使用料の徴収に関する業務 4. 小倉山森林公園の維持管理に関する業務				

3. 利用状況(目標と実績)

成果指標		単位	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
a	日光彫体験者数(年間)	人	30,000	29,021	30,000	29,717						
b	日光彫実演日数	日	333	328	330	330						
c	冬期間の県内体験学校数	校	20	6	20	9						
d	森林公園内除草回数	回	4	4	4	3						
e	森林公園内巡回回数	回	12	13	12	13						

4. 指定管理業務にかかる収支状況

(単位:円)

区分	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
収入計 A	55,589,522	56,302,142	0	0	0
指定管理料	24,710,000	24,710,000			
事業収入 C	30,711,930	31,408,630			
自主事業収入	144,000	144,000			
その他	23,592	39,512			
支出計 B	54,699,508	55,089,804	0	0	0
指定事業費	54,699,508	55,089,804			
内人件費 D	12,618,997	13,660,957			
内外部委託費 E	2,439,026	2,609,318			
自主事業費					
事業収支 A-B	890,014	1,212,338	0	0	0
人件費率 D/B	23.07%	24.80%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
外部委託比率 E/B	4.46%	4.74%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

※着色セルは、自動計算としている。

補足説明	平成29年度から再度指定管理(5年間)を受けた。

サービス改善の状況

日光彫体験教室運営に関しては、各学校の意見などを取り入れサービスをしている。要支援者には要請があれば講師を増員して対応している。
施設が各所傷んでいるので修繕箇所が多数でであり、随時改修等実施している。また、公園内の樹木の手入れ、伐採、枝木りなども多数実施している。

5. 管理運営状況

評価項目		評価基準	指定管理者 自己評価	施設所管課 評価
① サービスの 履行の 確認	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	B	B
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	B	B
		事業計画に即し、計画的に研修等を年1回実施している。	B	B
	外部委託	外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており、適切である。	A	B
		外部委託業者に対して、協定書等を遵守させている。	A	B
	法令遵守等	法令、条例等に基づき、必要な点検、報告等を行っている。	A	B
	個人情報保護	個人情報保護に関する法令を遵守している。	A	B
		個人情報の漏えい、滅失等の事故防止策に対する研修を年1回行っている。	A	B
	情報公開	情報公開に関する法令や条例に準拠した運用がなされている。	A	B
		協定書に従い、情報を適切に管理し、公表している。	A	B
	管理記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	B
② サービスの 質の評 価	施設管理	協定書に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	B	B
		事故防止及び安全確保のための研修を年1回行っている。	B	B
	利用者対応	利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。	A	B
		利用者に対して、設備、備品等を適切に提供している。	A	B
	事業運営	言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	B
		事業計画に即し、受託事業を実施している。	A	B
		施設の目的に沿った自主事業を実施している。	A	B
	維持管理	事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	A	B
		仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理等を適切に行っている。	A	B
		仕様書等に従い、施設や設備の保守管理を行っている。	A	B
	環境配慮	備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。	A	B
		協定書に従い、適切に修繕を行っている。	A	B
③ 安定性	環境配慮	環境配慮率選考計画取組点検表において、(1)が取組項目の2/3に達している。	A	B
	広報活動	事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	B	B
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	B
		要望、苦情等を整理し、市に報告している。	A	B
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果が妥当である。	A	B
	利用状況	利用実績は、目標水準である。	A	B
	総括	「業務の内容・水準」に関する評価【18項目】	A	B
	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え、適切に経理事務を行っている。	A	B
	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算執行している。	A	B
	経費縮減	経費が縮減され、又は縮減に向けた努力を行っている。	A	B
	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	A	B
	総括	「経費の収支等」に関する評価【4項目】	A	B
所見 (成果・課題等)		(指定管理者自己評価)		
		指定管理内では適切に運営している。		
		利用者数は状況に応じて多少の増減はあるものの、概ね目標に近いものとなっている。利用者は増えている。		
		(所管課評価)		
		体験者からのアンケート調査の結果、利用満足度及び再利用希望率は高いので、観光施設として、一定の役割は果たしている。		
		なお、平成30年度の年間体験者数は、29,717人となり、平成29年度の体験者数29,021人を上回り、目標数値の3万人をほぼ達成した。		
		しかしながら、利用者が目標数の3万人を上回るよう、今後も学校団体からの再利用だけでなく、市内、県内外の新規顧客を増やすために、さらなる広報活動を積極的に行うことが必要である。		
前年度総合評価		B(良好)	総合評価	B(良好)

※評価区分

評価基準	A(優良)	=	協定等の遵守に加え、仕様書より優れた管理が行われた。
	B(良好)	=	協定等を遵守し、仕様書に沿った管理が行われた。
	C(要改善)	=	一部、協定等が遵守できていない。又は、不測の事態等により仕様書に沿った管理ができなかった。
※施設所管課は、指定管理者に対するモニタリングや事業報告書の内容等を踏まえ、評価します。			
※数値が記載されているものに関しては、数値目標達成がB評価となります。			
総括評価	A(優良)	=	評価項目のうち、A判定が80%以上
	B(良好)	=	A、C 以外
	C(要改善)	=	評価項目のうち、C判定が20%以上
総合評価	A(優良)	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが含まれず、かつAが4つ以上ある。
	B(良好)	=	A、C 以外
	C(要改善)	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが2つ以上含まれる。